

# 令和8年6月定例会

令和8年6月市議会定例会は、6月3日から6月18日まで（会期16日間）開かれました。今回は8人の議員が市政一般に対する質問を行いました。市長から提出されました32件（条例6件、予算4件、その他22件）について審議し、いずれも原案どおり可決したほか、請願1件と意見書1件を可決しました。また、議員提出の議案2件も可決しました。

## 6月定例会の主な議案

### （甲議案）予算以外の議案

多久市こどもの医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例

高校生世代の子どもへの医療費の助成方法を、医療機関窓口で一旦支払い、市へ申請する事で、自己負担額を差し引いた額が口座へ振り込まれていたものを、医療機関窓口で自己負担額のみ支払うように変更するものです。

◎令和8年11月1日から



多久市ひとり親家庭等医療費助成に関する条例の一部を改正する条例

ひとり親家庭などへの医療費の助成方法を、医療機関窓口で一旦支払い、市へ申請する事で、自己負担額を差し引いた額が口座へ振り込まれていたものを、医

療機関窓口で自己負担額のみ支払うように変更するものです。

◎令和8年11月1日から

多久市副市長の選任について

古川晋一氏が選任されました。  
（任期）令和8年7月1日から4年間

多久市議会委員会条例の一部を改正する条例

この条例は常任委員会の定数を改正する条例です。

・総務文教委員会定数を8名から7名に改正。

・常任委員会から議長を除くものとする。

◎多久市議会の議員の一般選挙により選出される議員の任期の開始日とする。



### （乙議案）予算に関する議案

令和8年度多久市一般会計予算について（第1号）

#### （主な事業）

▼健康増進推進事業（940万円）

- ・特定検診に検査項目を追加
- ・体組成計やタブレットを活用した保健指導の実施
- ・家庭訪問用の庁用車購入



▼ウォールアート推進事業（1,000万円）

100作品の完成を契機としたイベント事業や、100作品完成後も地域の魅力として活用するための経費

▼公共施設等適正管理推進事業（道路事業）（6,520万円）

安心安全な交通環境を確保するために舗装、側溝、道路照明の補修・更新

「商工費のウォールアート推進事業」については、SNSなどを活用した情報発信について、より一層の強化に努めること。また100作品完成後には交流人口、経済効果など全体の検証を行い、今後の事業推進の在り方について慎重に検討すること」を意見し、1億2千147万9千円を増額し、予算総額148億1千147万9千円とする補正予算を原案どおり可決しました。

を行い、長寿命化を図るための経費



## 請願第1号

### 旧清掃センターに関する請願書

産業厚生委員会において審査し全会一致で採択しました。

## 議案質疑

提出された議案について、議案の提出者（市長か議員）に対して、議案の内容や提案の理由などについて疑問点や不明な点を探ること

### 市丸 勝義

■議案乙第16号  
令和8年度  
多久市一般会計補正予算（第1号）  
国民健康保険事業特別会計繰出金 94万3千円  
健康増進事業に要する経費 845万7千円について

Q 事業の詳細は。

A 4つの事業で、1点目は、生活習慣病の重症化を予防するために、特定健診の検査項目に2つの検査項目を追加します。2点目は体組成計を購入します。3点目はタブレット端末を活用した保健指導を実施します。4点目は電気自動車を2台購入して訪問に使用します。

Q 体組成計の購入はリースを検討されたか。

A 今回の財源が企業版ふるさと応援寄附金ですので、年度内に支出をするという決まりがあることから、購入としました。

Q この事業での成果・目指すところは。

A 最終的に目指すものとしては、大きな目標にはありませんが、市民の健康寿命の延伸です。令和6年度の特定健診の結果では、糖尿病型を示す人が約20%、メタボの該当者は25%と県内で最も高くなっています。今回の事業での検査の結果や体組成計のデータを生かしながら、御自身の体の状態に合わせた効果的な生活習慣改善に取り組んでいただけたと考えています。

### 彌富 博幸

■ウォールアート推進事業補助金  
1,000万円について

Q この事業の詳細と効果は。

A 100作品の完成を契機としたイベント事業です。市の新たな、観光資源、交流人口の拡大に貢献するものと考えています。

Q この事業の市民の認知度は。

A 更なる情報発信を行う必要があると認識しています。市民参加型のイベントの機会を創出して認知度向上に努めていきます。

Q 今後のウォールアートに関する事業について、どのような効果の検証を行い、進めていく予定か。

A 効果検証については、来訪や周遊状況などを正確に把握することは困難です。修学旅行や視察研修の実態など、SNSのフォロワー数の状況確認、またアプリなど活用し、地域経済の活性化に繋げていくよう努めます。